

図画工作

図画工作科における令和5年度の授業改善推進プランの検証

取り組みの成果と課題

- ・自ら既習の技能を作品に取り入れようとする姿が見られる。
- ・既習の技能を応用して使おうとする姿が見られるが、自分のイメージに合った技能を適切に選ぶことができない。
- ・作品の説明をワークシートに書かせる際に、言語化できるまで考えを深めることができない。
- ・色への意識が低く、形の中をぬらなかつたり、背景と似た色を使ったりする児童が多い。

図画工作科における課題

- ・題材ごとに応用できる既習の用具や材料を明確に示し、児童の思考・判断を促し表現力を高めること。
- ・題材に取り組む過程で言語化する機会を増やし、その都度考えを深めて制作すること。
- ・鑑賞活動を通して他児の作品のいい所を見付け、自分の作品を振り返り際に自分の作品の良さを改めて見つける機会を設けること。

図画工作科における改善策

①題材ごとに取り入れられる用具や材料を明確に示し、児童の思考・判断を促し表現力を高めること。

低学年	中学年	高学年
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技能を丁寧に指導し、何度も繰り返し取り組める環境を整えることで、技能を確実に身に付けていく。 ・技能に親しみをもてる名前を付けて指導することで、覚えやすくし、他題材でも応用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前題材までに学習した用具を図工室内に用意することで、常に各題材で応用できる環境にする。 ・題材ごとに取り入れられる用具や相性が高い材料を板書し明確に示していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な技法を取り入れた参考作品を提示する。 ・題材ごとに、既習の技能で取り入れたいものを児童から提案できる時間を設ける。

②題材に取り組む過程で言語化する機会を増やし、その都度考えを深めて制作すること。

低学年	中学年	高学年
<ul style="list-style-type: none"> ・導入では思い付いたことを児童に聞き、言葉を板書し共有することで、様々な考えがあることを学び合えるようにする。 ・発表の機会を設け、作品の説明を指し示しながらできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・題材によっては設計図を描き、余白に言葉で簡単に説明を書き込むことで考えを深められるようにする。 ・色や形など考えるポイントをめあてで明確に示し、自分のイメージをもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史や自身の思い出などに関連付けた題材設定を行うことで、考えを深めやすくする。 ・美術作品を鑑賞して色や形などの造形的な特徴や表現の意図を伝え、感じたことを言葉で整理し伝え合う機会を設けていく。

③鑑賞活動を通して他児の作品を見ていい所を見付け、自分の作品を振り返った際に考えが変容する機会を設けること。

低学年	中学年	高学年
<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく表現したり鑑賞したりする態度を養い、題材ごとに鑑賞の時間を設けて互いの作品の良さを共有させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の個性や良さを感じる感性を高めるため、鑑賞の授業では交流活動の時間を設け、他児の考えに触れる機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他児と互いの作品を鑑賞する際は、自分の作品を振り返って考えることができる設問をワークシートに設ける。